

名古屋ケミポート整備推進



水田敬二社長

ケミカルロジテックは、タンクターミナル事業拠点である「名古屋ケミポート」(名古屋港区)の体制強化を推進している。2013年11月に日本海事検定協会の分析室を敷地内に開設したほか、14年8月には危険物の詰め替え作業などが可能なマルチワークステーション(MWS)が本格稼働。これに続き、今年11月からは危険物倉庫

ケミカルロジテック

の建設に着手し「17年2月の竣工、3月の運用開始を目指す」(水田敬二社長) 計画だ。

ケミカルロジテックは伊藤忠商事グループのタンクターミナル会社。名古屋ケミポートは5万2000平方メートルの敷地に200〜1500キリまで全33基・計2万2000キリのタンクを持つ。ステンレスタンクの比率は約7割と全国平均を大きく上回っており、モノマーカーやスペシャリティケミカル分野を中心としたニーズの高まりに先を見

据えた対応を図っている。

名古屋ケミポートは四日市まで車で約30分と回転率向上に寄与する優れた立地環境のうえ、東西に2つの棧橋を併設している。西棧橋は2万トンの大型外航船まで対応可能で、「33基のタンク稼働率は引き続き高水準を維持している」という。

MWSは従来のケミカルにとどまらず、潤滑油や食品関連などの取り扱いが増加傾向にあるほか、危険物の詰め替え受注も好調に推移している。

新たな危険物倉庫は、平屋建て・倉庫面積約500平方メートルで、第4類すべての引火性液体を保管可能とし、特殊引火物のドラム缶で100本、その他ドラム缶で2000本の保管能力を持つ。

また事業継続マネジメントシステム(BCMS)の標準規格ISO22301:2012の認証を14年に国内タンクターミナル業界で初めて取得。こうした取り組みの積み重ねが操業開始以来約50年間の無事故継続にもつながっている。

来年2月に危険物倉庫竣工